

都道府県・指定都市番号	21	都道府県・指定都市名	岐阜県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	家庭（共通）
研究課題	<p><b>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</b></p> <p>○主体的に生活課題を見つけ、実践、解決していく力を身に付けさせるための授業実践の工夫とその評価方法の研究。</p> <p>○生徒が生活の中から問題を見だし、課題を発見し、解決に向けて考え実践する力を育てるための課題発見シートの開発と改善に関する研究。</p>				
ふりがな 学校名（生徒数）	ぎ ふ け ん り つ い び こ う と う が っ こ う 岐阜県立揖斐高等学校（399人）				
所在地（電話番号）	岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪 1852 番地（0585-22-1261）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="https://school.gifu-net.ed.jp/ibi-hs/">https://school.gifu-net.ed.jp/ibi-hs/</a>				
研究のキーワード	課題発見シート アドバイスシート 協働的な学び ICTの活用 評価				
研究結果のポイント	<p>○「課題発見シート」の内容を改善したり、その活用方法を工夫したりすることで、生徒が自ら考え、主体的に実践し、課題を解決していく力を身に付けることができた。</p> <p>○ 1年間を通してホームプロジェクトを指導することにより、生徒は、家庭科の学びを実生活に生かすことができた。</p> <p>○ 教師用の指導マニュアルを作成したことにより、指導を効率的に進めることができ、生徒の理解度が高まった。</p> <p>○ 評価方法を工夫したことにより、学習を振り返らせ、主体的な学習を促すことができた。</p>				

1 研究主題等

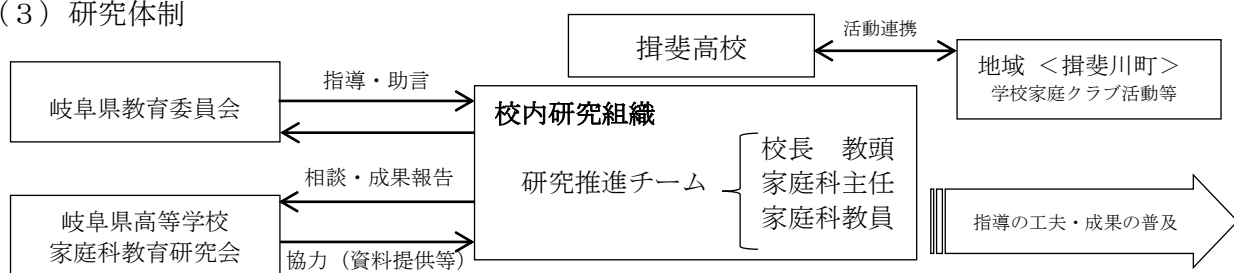
(1) 研究主題

「生活課題を解決する力」を身に付けるホームプロジェクト学習の指導方法の研究

(2) 研究主題設定の理由

社会が大きく変化していく中、生活は便利になりつつあるが、その反面、生徒個人の生活に目を向けてみると生活体験の不足や、基本的な生活習慣の乱れなどの問題は増加しているといえる。また、生活に密着した家庭科の学習は身近な学習にも関わらず、「知識、技術」の習得のみにとどまり、個々の家庭生活に深い関わりがある学習であると捉えている生徒は少なく、家庭科の学習が生活に生かされていないのが現状である。そのため、本研究では、「家庭総合」の授業で、家庭科の特徴であるホームプロジェクトの学習の工夫を通して、「生活課題を解決する力」を育てたいと考え、本主題を設定した。

(3) 研究体制



#### (4) 2年間の主な取組

平成30年度	①アンケートによる実態調査の実施と分析 ②課題発見シートの開発 ③ミニホームプロジェクトの実施（ゴールデンウィーク中） ④学校訪問による先進校の実践調査（2校） ⑤ホームプロジェクトの実施（夏季休業中） ⑥課題発見フローチャート，イメージマップの活用 ⑦公開授業・研究協議の実施 ⑧ホームプロジェクトの実施（冬季休業中） ⑨成果の検証，1年間のまとめ
令和元年度	①課題発見シートの改訂 ②プレゼンテーションを使用した学校家庭クラブ活動とホームプロジェクトの説明 ③ミニホームプロジェクトの実施（ゴールデンウィーク中） ④アドバイスシートの作成（教師用マニュアルの作成） ⑤ホームプロジェクトの実施（夏季休業中） ⑥ホームプロジェクトの発表 ⑦公開授業・研究協議の実施（ICTを活用した授業展開の工夫） ⑧ホームプロジェクトの実施（冬季休業中） ⑨ホームプロジェクトの発表（掲示） ⑩ポートフォリオの活用 ⑪評価方法の研究と検証 ⑫教科との連携（国語・公民・数学・理科） ⑬成果と課題，研究のまとめ

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

- ア 「課題発見シート」の改訂
- イ ミニホームプロジェクトの実施（ゴールデンウィーク中）
- ウ アドバイスシートの作成（教師用マニュアルの作成）
- エ ホームプロジェクトの発表形式の研究
- オ ホームプロジェクトを学校家庭クラブ活動に発展する工夫
- カ 評価方法の研究と検証
- キ 他教科との連携

### (2) 具体的な研究活動

#### ア「課題発見シート」の改善

昨年度作成した課題発見シートは、文章を記入するところが多く、記入時間も長くかかり、生徒の実態に合わなかった。そこで、様式を変更したところ、生徒からの質問が減り、記入のための時間を短縮することができた。毎時間、課題発見シートを記入するたびに、生徒は自己の家庭生活を振り返ることができたので、主体的に考えようとする習慣が付いた。また、シートのチェック欄の教員確認印にメッセージ性をもたせ、4種類のスタンプを用いたことにより、評価やアドバイスを生徒に伝えやすくなり、効率的に授業を進めることができた。

## イ ミニホームプロジェクトの実施（ゴールデンウィーク中）

昨年度は自由テーマでミニホームプロジェクトを実施したが、この時期は、授業で「学校家庭クラブ活動」「ホームプロジェクト」を学び、「食生活分野」に入ったばかりのため、課題発見まで至っていない。そこで、3種類のテーマを準備し、ホームプロジェクトの研究の進め方が理解できるように取り組ませた。実施後の生徒から、ホームプロジェクトの流れが理解できたとの感想を聞くことができた。

＜テーマ＞

「衣生活：クローゼット、たんすの中、衣装ケースの中などで、眠っている服（死蔵被服）はないか調べてみよう」

「食生活：ある日の食事を調べて問題点はないか考えてみよう」

「住生活：家の間取り図を描いて困っていることがないか聞き取り調査をしてみよう」

## ウ アドバイスシートの作成（教師用マニュアルの作成）

ホームプロジェクトのテーマ決定や研究内容を、生徒にアドバイスする際に活用できるアドバイスシートを作成した。短時間の指導ができ、教員の指導力向上に役立った。

## エ ホームプロジェクトの発表形式の研究

発表が発表者と聞き手の双方向の学びになるように、進め方を工夫した。

（ア）ホームプロジェクトの取り組みをK P法（紙芝居プレゼンテーション）で発表する。

（イ）聞き手が発表者の評価をする。

（ウ）K J法を使って問題点がないか、グループワークで討議する。

（エ）グループワークで出た内容を全体に向けて発表する。

（オ）各自の冬休みのホームプロジェクトにつなげる。

グループワークを実施したことにより、生徒が考えを深めることができ、主体的・協働的な学びにつなげることができた。さらに、コミュニケーション能力を高める効果的な授業となった。K P法でのホームプロジェクト発表を、ビデオカメラを通してスクリーンに投影したことにより、発表内容がよくわかり、生徒は意欲的に発表を聞くことができた。

## オ ホームプロジェクトを学校家庭クラブ活動に発展する工夫

ホームプロジェクトを学校家庭クラブ活動に発展させるため、以下のように指導方法を工夫した。

（ア）グループ内で夏休みに実践したホームプロジェクトの分野・内容をそれぞれ確認する。

（イ）各自のホームプロジェクトが地域でどのように活用できるかアイデアを出す。

（ウ）活用方法をパソコンに入力し、地域連携マップの作成を行う。（インターネットのマップ機能を活用）

（エ）全体に向けて発表する。

ブレインライティング法を用いて、アイデアを出しやすい環境を作ったことにより、生徒から活発な意見が出て、主体的・協働的な学びにつなげることができた。ICTを活用したことにより、効率的・効果的な指導ができた。地域の実態に合わせ、各自のホームプロジェクトが活用できる工夫を積極的に考えることができた。

## カ 評価方法の研究と検証

ホームプロジェクトの進度表を用いて生徒が自己評価することにより、研究の進捗状況を

確認することができ、主体的に改善する態度が見られるようになった。また、ホームプロジェクト発表会での相互評価から自己分析するなどして、各自の研究に対する不足部分や研究の深め方について知ることができた。ほとんどの生徒が、次のホームプロジェクトへと結び付けることができた。また、生徒の評価を教員の評価と照らし合わせ、ホームプロジェクトの評価の参考とすることができた。

#### キ 他教科との連携

各教科の年間指導計画を比較し、関連する内容を取り上げ、教科横断型授業を通して各教科の専門性を生かした指導方法を工夫した。

《主な内容》 国語（調べ学習の発表）、公民（法律、消費者教育）、  
数学（廃棄率等の計算）、理科（燃焼実験、化学繊維、発酵、細菌）

### 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 今年度、内容を改善した「課題発見シート」を活用することにより、課題を見付けられない生徒に個別に対応できた。また、「課題発見シート」の活用により、生徒は主体的に生活課題を見つけ、考え、解決していく力を身に付けることができた。
- プレゼンテーションを使用したホームプロジェクトの説明→ゴールデンウィーク中のミニホームプロジェクトの実施→毎時間の授業終わりに「課題発見シート」に記入するというように、1年間を通してこのような流れでホームプロジェクトを指導することにより、生徒が生活の中から問題を見だし、解決に向けて考え実践することができた。
- 全ての生徒がホームプロジェクトにつながる「キーワード」を見付けることができるようにアドバイスシート（教師用の指導マニュアル）を作成したところ、指導を効率的に進めることができた。具体例を挙げ、生徒に伝えることにより生徒の理解度が高まり、ホームプロジェクトのテーマ設定および研究内容を主体的に考えることができるようになった。
- 評価方法を工夫したことにより、日々の学習内容を振り返らせ、深く考えることができるようになった。また、ホームプロジェクトにとどまらず、どのように実践すればどのような結果が得られるのかを常に意識するなど、見通しを立て、粘り強く取り組む態度を養うことができた。
- ICTを活用した授業展開が少ないため、効果的な活用を研究し、授業に生かすための工夫をする必要がある。
  - 「タブレットやスマートフォンの活用により、生徒の思考力、分析力等が高まる効果的な授業（岐阜県立大垣桜高等学校）」という研究を参考にして、今後、本校の実態に即した効果的な活用方法を研究していきたい。

### 4 今後の取組

- 他教科との連携をさらに充実させ、深い学びへつなげるための指導方法の研究を進める。
- 今年度改善した課題発見シート、ワークシート等を授業で活用する中で、より効率的で効果的な指導ができるように工夫・改善を進める。
- ホームプロジェクトの実践を記録し、ポートフォリオとして残すことにより、生徒の問題解決能力の育成を図ることができているので、この取組を今後も継続していく。
- 学校家庭クラブ活動の充実のために、ホームプロジェクトを発展させ、学校生活や地域の生活の向上につなげる取組を進めていく。